

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探求コース 観光交流促進コース		訪問国	オーストラリア タスマニア島	
学校名	静岡サレジオ高等学校	氏名	福地まや	学年	高 2

まず私がこの事業に参加し留学に行こうと思った理由は海外へ強い興味があったのと自分の目を通して世界を見て知らない文化や生活を味わいたいと思っていたからです。このトビタテの特徴の一つは自由な探求活動、そこで私はもともと好きだった自然と関連付けようと思いました。自然保護と観光業を合わせたエコツーリズムをキーワードとし、オーストラリアのタスマニア島へ留学しました。

探究活動では地元の人たちの日常生活や施設、保護環境からタスマニアの自然保護の特徴を調べ静岡に活用するというものでした。タスマニアと聞くと人によってはタスマニアデビルを連想すると思います。ですがそれだけではなく、タスマニアは固有種を守るための国立公園と保護区が多くあり、オーストラリアの中でも自然保護の質が高い



場所です。そんなタスマニアへ行って私が驚いたことは”人々の自然保護に対する意識”でした。こう聞くと自然保護への関心や意識が強かったように感じますが、その逆で思ったより意識をしている様子はありませんでした。しかしそれでも、ほとんどの人がマイバックを持っていたり、生ゴミでコンポストをつくって肥料にしたりと日本に比べるとエコや地球にやさしいことを意識していました。また私が感心したのはレジ袋の素材がエコだったり、人々が無意識に生活していても自然保護につながる環境づくりがされていたことです。そこで私は関心を持ってもらうことはもちろん大事だけれど最終的にはエコな生活が意識されずとも行われる状態にしたいと思いました。



次にいくつかの国立公園と保護区を訪れました。マウント・フィールド国立公園では森の中にいくつかのハイキングコースがあり、看板に往復でかかる時間が書かれていてこれはエコツーリズムのひとつとして静岡にも活かせるのではと思っています。他にもボノロン

グ野生動物保護施設のツアーに参加したり、家の近くの保護区に指定されている森や川に行ったりしました。ボノロングでは職員さんが保護した動物たちの経緯や現状について説明してくれました。ほとんどが観光客でこんなふうに伝えていくのかと勉強になりました。

タスマニアでは政府や保護区などが行う大きな保護から個人の意識による小さな保護まですべてが合わさってこの自然が守られていると現地の生活で強く感じました。

留学では初めての一人旅、しかも海外ということで不安でした。しかしそれを大きく上回るほどのドキドキがありました。もともとずっと行きたかった留学でなにより未知への好奇心が強かったです。ただ何事もうまくいくものではなく、飛行機が遅れたり、乗り換え先の空港で迷ったりと初めからトラブルに見舞われました。しかし行きでそんなことがあったからこそ、その後は自分から人に聞きに行く・わからないことはしっかり聞くことを意識しました。



印象に残っていることは語学学校が終わったあとに街のいろいろなところを歩いてことと現地の高校に訪問したことです。タスマニアの州都ホバートに語学学校があったため放課後はチョコレートのお店やパン屋に教会など日本とは全く異なる町並みを眺めながら自分の足で探検したのはとても楽しかったです。また2日間だけ地元の高校ホバートカレッジの授業に参加することができました。語学学校の生徒は幅広い年代でいろいろな国の人がいましたが、高校は年の近い子が多く語学学校とはまた違った交流でいい経験になりました。

最後に、私は留学へいったことで今までにない経験をし、様々なものを得ました。特に”自分から行動する力”と”物事を広く考える力”が強くなったと感じました。留学前から自分で計画を立ててこの事業に申し込んだことで自身に繋がりましたが、留学先でわからないことや知りたいことは積極的に聞くことを意識して無事留学を終えたことで行動に移すことへのハードルが低くなり、積極的に動けるようになりました。また今までより考える規模が大きくなり視野も広がりました。この力がついたことで将来像が具体的になりました。私はこの経験を活かしていくと共に、より多くの人に留学の良さを広めていけるよう活動していきたいです。

